

【研究課題】

伊勢崎保健所管内の外国籍の新型コロナウイルス感染症患者の調査からみえてきた問題点

【研究目的】

伊勢崎保健所管内では、多くの外国人が居住している。令和3年8月1日時点での伊勢崎市の全人口212,666人のうち、外国人人口は13,491人(6.34%)であり、新型コロナウイルス感染症においては、陽性者の中にも多くの外国人患者がいた。

新型コロナウイルス感染症の発生届出があった場合、保健所では陽性者に連絡を取り、本人の情報を聴取する積極的疫学調査を行っている。調査内容は患者の氏名、年齢、住所、職業などの基本情報のほか、症状の経過や行動歴等を聴取し、療養先の決定や濃厚接触者の同定を行っている。こうした積極的疫学調査を通して外国人の生活実態が明らかになるとともに、調査に際して、日本語を全く理解していない者や、通話可能な携帯電話を所持していない者がいるなど、患者からの情報の聴取や保健所からの情報の伝達に困難があるなどの問題点も明らかになってきた。

本研究では積極的疫学調査の調査票に記載された聴取内容を調べることにより外国人の社会的背景や連絡手段を把握し、今後の危機管理時の外国人へのアプローチ方法等を検討することを目的とする。

【利用する試料・情報の種類および収集方法】

<収集する試料・情報の種類>

伊勢崎保健所管内で令和3年8月1日以降に新型コロナウイルス感染症に罹患した患者のうち、伊勢崎保健福祉事務所のデータベース上の「陽性者一覧」で管理され、調査票の国籍欄に外国籍が記載されている者。

<収集方法>

令和3年8月1日以降に伊勢崎地域で新型コロナウイルス感染症に罹患した患者のうち、伊勢崎保健福祉事務所独自のデータベースである、「陽性者一覧」に登録された者のうち、国籍が外国籍の者を抽出する。抽出された対象者の県内事例番号により対象者の患者調査票(新型コロナウイルス感染症基本情報・臨床調査票)を検索し、集計、分析に必要な調査項目を表計算ソフト(エクセル)に入力する。調査項目は患者および同居者の国籍、年齢、性別、職業、感染経路(散発あるいは家庭内)、ワクチン接種の有無、療養施設、濃厚接触者の人数および調査時の連絡手段である。

<試料および情報の保管場所と保管方法>

県庁データサーバ上に個人フォルダーを作成し、集計用のエクセルシートを作成し、パスワードをつけた状態で保存する。

【研究責任者】

田中 純子 藤岡保健福祉事務所（兼）伊勢崎保健福祉事務所・技師長

【問い合わせ先】

ご自身の試料・情報が当該研究に用いられることについてご承認いただけない場合には
研究対象とはしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。

伊勢崎保健福祉事務所総務福祉係

電話：0270-25-5066